

Tokai Fubokon Letter

シリーズ「知りたい!隣の地域懇」

昭和 秋の地域懇談会〈10/16〉

百志館5階の図書館閲覧室に、75名の方にお集まりいただきました。中3幹事学年の皆さんの素晴らしいチームワークにより、事前打ち合わせは全てオンラインで済ませ、当日の対面打ち合わせのみで滞りなく会を開催することができました。段取りや役割分担も完璧で、幹事の皆さんがワンチームで会の運営を楽しんでいらっしゃる様子が印象的でした。

初の試み:OB 親子ゲストのご招待

ゲストとしては、今春卒業のOB 加藤さん親子をお招きしました。最初にOB加藤優太さんから、学校生活や勉強方法について、共通テスト当日の過ごし方や受験当日までのメンタル調整法など具体的なエピソードを交えながらお話ししていただきました。次にお母さまである前父母代表の加藤佳世さんから、「息子とどのような距離をとりながら6年間過ごしてきたのか」「志望学部選びにどのようにアドバイスしていたのか」など、お母さま目線からのお話があり、ご参加の皆さんは真剣に耳を傾けていらっしゃいました。

滋味あふれる寺田先生のお話

昭和地域担当の太田正和先生(高校情報科)からは、2025年度から大学入試共通テストに追加予定の「情報」科目について、詳しく説明していただきました。そして、長年昭和地域を支えて来られた寺田幸弘先生(高校英語科)。受験、進路選択に向けての留意点として卒業生からのメッセージをまとめた資料を参照しながら、学習方法や子どもへの声のかけ方、共通テスト初年度から次年度における心構えなどを、たっぷりお話しくださいました。会の最後には本年度で昭和父母懇を卒



業される寺田先生に、感謝の気持ちを込めて花束の贈呈をいたしました。寺田先生を名残惜しむ父母の声が多数聞かれ、先生の大きな功績を物語っていました。



三様に盛り上がる分散会

続く分散会では、高3父母の方は寺田先生を囲みでの相談会。一方、中1父母の方には、横のつながりを持っていただくこと、幹事さんからの声かけて席替えをしながら連絡用LINEグループを作っていただきました。また、中2~高2の皆さんには、加藤さん親子の個別相談ブースを設け、自然に皆さんが楽しそうにお話をされている姿を目にして、この機会を作れてよかったと思いました。

例年とは異なり、会食を伴わない校内施設での開催となりましたが、時間にゆとりが持てたため、皆さん心ゆくまでお話しされ、不安も解消されて笑顔でお帰りになる姿を多数拝見でき、校内開催のメリットもあったのではないかと感じました。

【参加者の感想】

- ・ 講演会の加藤優太さん お母様のお話し頂きました6年間の学校の基本的な生活のお話、ご家庭で大切になさっていたことを率直にお話し頂きました事は、一番お伺いしたい内容でした。寺田先生の講演会での具体的な資料を元に、さらに掘り下げたメタコミュニケーションのお話からは、日常生活を過ごす中でも、心の中で言葉を咀嚼して伝えるようにする訓練をしなければ…と思いました。
- ・ 幹事学年の中3保護者の方々のチームワークの良さが光っていたと思います。また、こちらの緊張をほぐしてくださるような温かいお声かけもたくさんしていただき、終始和やかな雰囲気の中、楽しく過ごす



ことができ気づいたら夕方までびっくりしました。卒業生の方の貴重な体験談や普段は接することのない先生方の

教育現場の声や子育てに対する考え方にも触れることができ、このような貴重な場があるから親も我が身を振り返るきっかけにもなり、我が子を預ける学校への愛校心も芽生えていくんだなと実感しております。東海は保護者同士の繋がりも大切にしていってくださるとお聞きしていたので、このような会を代が変わっても、状況が変わっても継続していくことは大変だと思いますが、大変でも継続しようとする父母懇の皆様から感謝致します。

【OB 加藤優太さんの感想】

昭和区地域懇談会を振り返って、話した感想や、伝えたかったこと、そして僕が父母懇やそれに関わる母を見て思ったことについて書きたいと思います。

まず、感想としては、すごく緊張してしまったなというのがあります。今回ほど大勢の人の前に立って話をさせていただく機会は初めてでしたし、詰まってしまうのか、上手く伝えられるだろうかといった不安もかなりありました。あと、父母の皆さんがすごく熱心で少し気圧されてしまいました。父母の方全員が「一言も聞き漏らすものか」という気迫を持って僕の話聞いていたように感じました。中にはメモなどもとっている方もいて、僕の話を中心にしてくれているということが伝わってきました。ただ、そんな緊張と期待の中でも思ったよりは話すことが出来たと思います。

特に伝えたかったこととして、受験は頑張りすぎず、続けること、そして一緒にいて心落ち着く友人を持つことがあります。やっぱり受験は長い間勉強を続けなければならないので、一時頑張ってもそこまで上手くいかず、逆に疲れたり、やる気が下がってしまったりして、意味が無いと思います。また、そうやって長い間勉



強しているととても気が減入ってしまうので、そういう時に1人でも気の許せる友達がいると気持ちが楽になるので非常に重要だと思います。

最後に、懇談会を経て父母懇やそれに関わる母親に思うことを書きたいと思います。懇談会に入る前は、正直父母懇に対しては、よくわからないという印象でした。存在は知っているが、実際に何をしているのかはよく知らなかったです。懇談会を経て、父母懇が私立中高の助成に関わっていると知り、非常に重要だと思いました。実際私立に通った身としては、私立特有の雰囲気や、自由から厳しいところまである校風など、私立でしか味わえない良さがあると思うので、このような活動で私立に対する敷居を下げるというのは本当に良いことだと思います。

そのような組織で母が活躍していたというのは誇らしいことですが、あまり実感は無いです。というのも母は活動内容とかはあまり詳しくは話さなかったからです。どっちかというと思痴の方が多いです。やはり忙しいようでストレスが溜まっていたり、家にいる時間が短かったりしました。ただ、なんやかんや父母懇で楽しそうに活動しているように見えました。それに家にいる時間が短いというのはそんなに悪いことではなかったと思います。ちょうど良い距離感で、変な干渉もほとんどなく学校生活を快適に送れたと思います。また、母が父母懇で活動すると、母が先生と繋がりを持つので、先生の話で話が合ったり受験に理解があったりして、とても過ごしやすかったです。

懇談会を終えて、父母懇について知れたり、母のスピーチを聞いて母が実は考えていたことを知れたりして、いい経験になったと思います。

【OB 母 加藤佳世さんの感想】

昭和地域懇談会に親子で参加し、私からは東海での6年間を振り返ってどのように過ごしたのかをお話ししました。

私は、東海中高父母懇談会事務局として5年、そのうち2年は父母代表として関わりました。家を空けることが多く、息子についての口出しはほとんどしませんでした。今回はそのことについて息子がどのように思

っていたのか、初めて知ることができました。あまり家にいないこと、色々出ししないこと、ほどよい距離感が良かったそうです。私は改めて父母懇の活動をしっかりやっていた良かったなと思いました。活動のおかげで息子に言いたいことは外で発散して、家では何も言わずにすみました。それと、家にいないからといって息子との関わりが少なかった訳ではありません。父母懇の活動で先生方にお会いする機会が多く、息子の様子、学校の雰囲気は先生から聞くことができたので、安心して息子を見守ることができました。

今回、この地域懇談会でお話しする機会をいただいて、息子があんなにしっかり人前で話せることを間近で見ることができ、息子の成長を感じることができました。素晴らしい機会をいただいたことに感謝します。ありがとうございました。

秋の地域懇談会を終えて

教員代表 北村雅臣



コロナ禍で迎えた2年目の秋。全28地域で地域懇談会が開催されました。各地域の幹事のみなさまが感染防止対策を徹底し、細やかな気配りのもと開催していただきました。あらためて、準備や運営に携わっていただいたみなさま、そして当日ご参加いただいたすべてのみなさまに感謝申し上げます。

新たな「地域懇のかたち」

さて、コロナ禍により、「例年通り」が通用しなくなるなか、準備方法や開催形態などを柔軟に変更しつつ、新たな「地域懇のかたち」を各地域で模索されたことと存じます。父母懇史上初、Zoomを使ったオンライン双方向地域懇を開催された地域。対面での準備会が開催できないなか、幹事のみなさまがLINEを使って情報交換しながら準備を的確に進めていただいた地域。一度に多数の方が集まる「密」を避けるために、(複数)学年単位で分散開催された地域。食事をしながらごゆっくり…というわけにはいかないなかで、学校の施設を利用して、コロナ禍の学校生活や受験の心構えなどのお話に焦点を当てた地域、出欠席の集約について、ICTを使い、より簡便な方法に変更された地域…など。

変わっても変わらない地域の個性

それぞれの地域で、会場や開催形態など、前例にとられないで、無理なく実施できる道をお考えいただきました。その結果、このコロナ禍におきましても、生の情報交換の場としての地域懇を継続することができました。学校を会場として開催されたことで、私も複数の地域懇に参加させていただく機会を得ましたが、かたちは変わっても、それぞれの地域の「個性」は“カラフル”なまま。ちょうど記念祭クラス企画がそれぞれ独特の個性を発揮するように、コロナ禍でも地域懇は色とりどり。地域のカルチャーを保持しながら、大切な情報交換の場になったのではと思っています。

事後アンケートから

地域懇の際にお願いした事後アンケートでは、幹事のみなさまのご苦勞への感謝のコメントが多数寄せられ、実り多い時間をお過ごしいただけたこと、たいへん喜ばしく思っております。一方、次回に向けて改善方法を考えるきっかけとなるコメントもいただき、with コロナ時代の地域懇のあり方について、今後もみなさまの声が反映できるよう検討していきたいと思っております。

来年の春、「新入生歓迎地域懇」が無事開催され、またみなさまにお会いできることを楽しみにしております。ご協力ありがとうございました。

次号の掲載予定

- ・ 東・中オータム
- ・ 高フェスイントビュー

編集後記

アンケートの感想やインタビューから記事をまとめていると、父母懇活動って「ありがとう」がいっぱいだな、と感じます。幹事、参加者、講演者、先生、生徒…どの立場の方からでも感謝の意が伝わってきます。そういった心の声を改めて紹介し、皆さまの気持ちをつなげていくことが T.F. Letter の目標の一つであり、それが未来につながるのではないかという思いを新たにしました。